

基本情報							
教科・科目		高2 地理総合		授業で使用するもの 地図帳（帝国書院） ウィニングコンパス 2026（とうほう） 資料集（とうほう） 教科書（帝国書院） ipad（主にロイロノートにて各種提出物管理に用いる）			
担当者		A 大網貴之 BC 伊藤大介					
評価割合（試験：試験外）		試験：6 試験外：4		中1履修「地理」を引き続く。(ウェグナー・ケッペン・ウェーバー・ホイットルセー) 高3選択履修「地理探究」にて地誌に引き継げるように、本年は系統地理をメインで構成する 定期テスト②・④・⑤100点満点（60点は学年共通問題） 試験外評価については、授業で行うアクティビティ、プレゼンテーション、単元テスト等で評価。			
年間を通じて教科で培う力		鍛錬（知識及び技能）		□地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べとめる力			
		理知（思考力・判断力・表現力等）		□地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し、表現する力。			
		探究・叡智（主体的に学習に取り組む態度）		□地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする力			
学習情報							
月	回	単元（学習）目標	単元目的（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント	
4		地理の捉え方 地図や地理情報システム	・「地理」という科目を学ぶ意義を理解する ・人々の営みが地形的制約や気候条件に左右されていることを理解し、身近な地域に考え方を転用できる	1.地理という学問の捉え方 2.地形と人々の営み 3.地図の歴史と図法	・講義（インプット）	・単元テスト	
5		大気大循環 ケッペンの気候区分	・気候因子（緯度・海流・標高）が与える気候の原理を理解している ・具体的事項から各地の気候と人々の生活や産業が相互関係にあり、他の気候帯においてもこの抽象的概念のもとに具体を考えることができるようになる。	1.大気大循環と海流 2.ケッペンの気候区分 3.植生と土壌	・講義（インプット）	・単元テスト	
6		ケッペンの気候区分 大地形	・地形を知ることは生活の場の特性を知ること、土地環境の理解だけでなく防災の観点からも地形を見ることができる	1.ウェグナーの大陸移動説 2.プレートテクトニクス 3.地帯構造の分類 4.大地形	・講義（インプット） ・Google Earthを用いての鳥瞰 ・映像資料からの読み取り等	・単元テスト	
7		小地形	・小地形を学習することによって、身の回りの地形がどのように形成されたのか、外的営力によって今後、その地形がどのように変化するか、その際に考えられる防災リスクについて考え、将来の自分の選択肢を多角的に見ることができる	5.小地形&防災	・講義（インプット） ・授業後に行う演習問題 ・Google Earthを用いての鳥瞰	・単元テスト ・レポート ※評価はルーブリックにて示します	
7	定期試験② 令和8年 7月15日ー7月17日 範囲)						
9		言語と宗教	・宗教が世界の多くの人々の価値観や生活習慣に大きな影響を与えていることから、日本との共通点や相違点に着目し、多様な習慣や価値観などを持っている人々と共存していくことの意義に気づく	1.言語 2.世界宗教	・講義（インプット）	・単元テスト	
10		農業	・普段食べているものにどれくらいの資源が投入されているのか、生産過程（農業）と併せ理解し、SDGsに挙げられているような世界規模の課題に対する多角的な視点をもつ。 ・食糧生産は十分なのに、食糧に困る人が多くいるという事実から、現状行われている企業の取り組みを参考にし、高校生という視点から新たな提案を行うことができる	1.ホイットルセーの農業区分 2.食料問題 3.米（生育条件と気候） 中国・インド地誌	・講義（インプット）	・単元テスト	
11		資源・エネルギー 環境問題 工業	・資源を持つ国と持たざる国の性質から、どのようなことが現代社会において問題となっているのかに興味を持つことができる ・資源等に恵まれている国は資源をどのように活用し経済を発展させているのか、加えて持続可能性に乏しいエネルギー資源との関わり方をそれぞれの国が模索しているのかを理解することができる	1.環境問題 2.資源・エネルギー 3.発電 4.比較地誌（ニュージーランドとイギリス） 5.ウェーバーの工業立地論 6.日本の工業立地 7.繊維産業（バングラデシュ）	・講義（インプット）	・単元テスト ・プレゼンテーション	
12			・工業製品を使う人・作る人のニーズを両立するために、私たちは何ができるのか考え、調査をし論理的に策を講じることができる				
12	定期試験④ 令和8年 12月9日ー12月11日 範囲)						
1		人口	・人口ピラミッド（富士山型・つりがね型・つぼ型）から、その国の発展段階や課題を読み取ることができる ・出生率・死亡率・自然増加率・合計特殊出生率などの指標の意味を理解し、国際比較に活用できる	1.メッシュマップ エクメーネ・アネクメーネ 2.日本の都市化に伴う人口移動 3.人口ピラミッド	・講義（インプット）	・冬休みの課題のグループ内発表	
2		都市問題	・都市問題がなぜ起こるのか、歴史的背景から考察し、植民地支配における負の遺産が現代社会にまで引き継がれているということを踏まえて、現代社会の在り方について多角的に考察することができる	1.都市における居住問題 2.具体的事象として南アフリカの居住問題と歴史的背景	・講義（インプット）	・単元テスト	
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日ー3月6日 範囲)						